校長よりメッセージ『竜北生、Ｇｏ‼』（竜北生の皆さん・保護者の皆様へ⑧）

私の修学旅行日記

校長　尾﨑　淳一

３年生の皆さんが楽しみにしていた修学旅行。２泊３日の長丁場なのに、文字どおり「あっ」と言う間に終わってしまいましたね。それだけ、仲間とともに濃厚な時間を過ごせたということです。『修学旅行のしおり』には、ぎっしりと素敵な思い出が詰め込まれていると想像できます。せっかくですので、私の思い出の一部を公開しましょう。

○　猛スピードで走る新幹線の中でジャンプしても、同じ位置に着地できるのは不思議です。「慣性の法則」によるものと、理科教師から学びました。某理科教師は、車内で「実験動画」を撮影していました。授業準備だそうです。私をはじめ、まじめな竜北中の教員です。

○　富士山の近くでは、景観条例に基づき、コンビニの看板がこげ茶色に塗装されていました。私の乗った〇組のバスの後方から、「火山灰かなあ……」という素敵なつぶやきが聞こえてきました。最近、富士山は噴火しただろうか。私は真剣に悩みました。

○　神秘的な富士山麓の「洞窟・樹海体験」は、いかにもミステリーツアーという感じで楽しみでした。しかし、実際には貴重品管理のため、バスの車窓から竜北生の後ろ姿を見送るのみでした。初対面のバスの運転手さんと２人きりで過ごす３時間のお留守番は、まさに神秘的な時間でした。

○　ペンションの私の部屋名は「ラベンダー」。内装もパステル調で、爽やかなイメージが私にぴったりです。１人部屋のため、修学旅行に欠かせない「恋バナ」もできず、２日目に備えて早めに寝ました。樹海をさまよう悪夢は見ませんでした。

○　「夢と魔法の王国」では約８時間、何も乗らずに本部待機でした。私の大好きな『空飛ぶダンボ』は、平日なのに３０分待ちの大人気でした。竜北３年生も楽しんだことでしょう。行列にはファミリーとカップルばかりで、シングルライドの私はダンボライドを諦めました。

○　グループに１台のデジカメを渡された竜北生は、グループの仲間や園内の景色を撮影していました。別にいじけたり寂しい思いをしたりしているわけではありませんが、私には「一緒に写真を撮りましょう！」という竜北生の声が、８時間待っても一度も聞こえませんでした……。

○　知立市の日常生活では見たことのない、王国専用のサングラスやカチューシャ、キャップを身に付けた竜北生をたくさん見ました。せっかくなので私もブームに乗ろうと、ショップで品物を手にしましたが、値札を見た瞬間に諦めました。知立市内でも使用したがったのに……。

○　ホテルの私の部屋に入ると、見知らぬ荷物が２つ届いていました。タグに部屋番号を誤って記入した竜北生がいたようです。親切な私が両手に荷物を持って部屋を出ると、背後でドアが閉まる音が聞こえました。そして、私は二度と部屋に戻れなくなりました。インロック……。

○　３日目の「東京分散学習」でフリー活動を言い渡された私は、丸の内南口で４時間ほど竜北生の安全を見守りました。芸能界にスカウトされるかと思いましたが、そのような気配は全くありませんでした。内心ホッとしました。

○　帰りの新幹線でも竜北生は元気でした。私の前の席の愉快な竜北生は、「モッツァレラチーズ」「モッツァレラチーズ」「モッツァレラチーズ」とだんだん大きな声で言っていく謎の遊びをしていました。私もいつ順番が来てもいいように準備しましたが、永遠に順番は訪れませんでした。

竜北３年生の皆さんの素晴らしさは、普段の生活で学んだことを修学旅行でも実践できたことです。「時間を守る」「挨拶をする」「仲間を大切にして過ごす」など、一人一人が意識した賜物ですね。中学校の修学旅行は、生涯に一度限りです。素敵な思い出を胸に、これからも充実した「竜北ライフ」を過ごしてください。**「竜北生、Ｇｏ‼」**

私にとっても心に残る３日間となりました。**「竜北生、Thank you‼」**

３年生保護者の皆様、修学旅行ではお子様の送迎をはじめ、多大なお力添えをくださり感謝いたします。ご家庭の理解と協力あっての学校教育活動と、改めて認識した次第です。

（令和７年５月２９日）